

AI活用のケアプラン作成に期待

◆全国初となる豊橋市のAI活用によるケアプラン作成の実証実験

愛知県豊橋市は、2018年7月から、高齢者のケアプラン（介護計画）作成に人工知能（AI）を活用する、全国初の大規模な実証実験を実施する。実験では、ケアマネージャー（ケアマネ）約50人が策定する約600人分のケアプラン策定にAIを活用する。AIを開発したシーディーアイは、介護大手事業者等が出資するスタートアップで、AIを活用した自立支援・重度化予防につながるケアプランの開発・提供を事業目的としている。

AIは、過去の介護データを基に、どういった介護サービスを提供すると症状が改善するかを学習する。豊橋市では、市内の過去8年分のケアプラン10万件のデータを提供し、AIに学習させた。利用者の要介護度など約120項目を入力すると、学習結果に基づき、最適なケアプランを3つ提示する。ただし、AI活用によりケアプラン策定の時間は大幅に短縮できるが、利用者や介護者等と調整し、最終的に判断するのはケアマネで、すべてをAIで代替できるわけではない。

◆AI活用で期待されるケアマネの負担軽減と自立支援型介護の推進

先行するシーディーアイと豊橋市以外にも、ケアプランにAIを活用する動きがある。17年11月、ニチイ学館とNECは、NECが開発したAIに、ニチイが保有する過去5年分のケアプランなどのデータを学習させる共同事業を開始した。要介護度が維持もしくは改善している利用者と悪化した利用者双方のケアプランの差をAIに学習させ、介護サービスの質の向上をはかる方針だ。

また福祉分野事業をIT・先端技術で支援するウエルモ(福岡市)は、ケアプラン作成用のAIを開発し、「客観的で専門的知見に富んだ自立支援のためのケアプラン作成の実現」を目指し、18年夏から介護事業者向けに試験提供を始める。

一方、高齢者が増加する中で国も自治体も負担をいかに抑えるかが課題になっている。介護利用のコストは、高齢者の負担は1～2割で、残りは自治体や国の他、企業や現役世代などの保険料で賄われている。AI活用は自立支援のためのケアプランの質を向上させるという点で介護給付費の抑制も期待できる。 【秋元真理子】